



新生 東桜学館高校ソフトボール部スタート！

4月、併設型中高一貫教育校 山形県立東桜学館中学校・高等学校が開設しました。

ソフトボール部も旧楯岡高校の部訓をそのまま継承し、3年3名、2年年5名、1年生4名の入部を得て、合計12名でスタートしました。

新ユニホームで4月9日より練習試合や柴田・下奥杯等を行いました。これからは、更に試合を数多くこなし、まずは、地区大会優勝、県大会ベスト4を目指して頑張ろう。



新しく掘先生が監督、今野先生が顧問に。



楯高OGの金澤さんも今年からコーチに



柴田・下奥杯開会式（山形学院グラウンド）



故下奥信也先生（元日体大教授）の石碑



- ・ 三年生になると4月から6月の県大会までは、あっという間に過ぎてしまいます。
- ・ 一日一日の部活動を悔いの残らないように頑張ろう。

勝負の神様は見ているぞ！

必死に努力した人にしか微笑まない！



東桜学館がこれから長期にわたり、最北地区の強豪校としての礎をつくるのは、2代目二年生、3代目一年生の活躍に懸かっています。**そのためには、心のもった挨拶や礼ができる人間になろう。**



部訓 「一球感動」～目配り・気配り・心配り～

「あの一球、あのプレーが……と一球に一喜一憂する。そこにソフトボールの魅力がある。選手は、三年間一球に怒られ、一球に褒められ、一球に泣き、一球に笑い、一球に喜び、最後まで諦めないことが、チームプレーに繋がっていくことを学ぶ。そして、一球によって大きく成長する。指導者も保護者も一球に感動し、感謝し、選手と一体になる。」「勝った喜び、負けた悔しさを忘れないで、三年間、自分の心を鍛え、チームメートを気遣い、今まで支えてくれた家族を始め、多くの人々に感謝する心を養う。」

このことが「一球感動」から生まれてくる。

目配り～ 広く周りに目を向けて動きをチェックすること。

気配り～ 相手の立場を尊重し、思いやって考え、配慮すること。

心配り～ それをさりげなく心遣いをして、労ること。

県内、外のソフトボール部の皆さん、今年から東桜学館高校を宜しくお願いします。